

令和7年度（2025年度）建設常任委員会管外視察の概要

1 観察日 令和7年（2025年）10月29日（水）～31日（金）

2 観察者 建設常任委員会（8名）

西山宗孝（委員長）、城戸淳（副委員長）、吉永和世、
坂田孝志、楠本千秋、本田雄三、住永栄一郎、斎藤陽子

3 観察の概要

（1）ひろしまスタジアムパーク【広島県広島市】

ひろしまスタジアムパークは、日本初のまちなかスタジアムとして、市街地内でサッカースタジアム、広場、商業施設となった複合型パークとして2024年に開業。単なるスポーツ施設ではなく、スタジアムに隣接する広場とともに価値創出を行っている。

今回の観察では、近隣地域（紙屋町・八丁堀地区）と連携した賑わい創出、市民から広く意見を聴取しながら効果的な賑わい機能を導入したことによるまちづくりの状況について説明を受けた。

広島市公園整備課から、
市民が一日中スタジアムパークで過ごすことができるよう、トイレ、遊具等の設備整備、各種レンタルなどを実施しており、また、芝生広場においては、フードフェスティバルなど多彩なイベントが開催されているとの説明があった。



（2）広島県道路企画課（広島高速5号線）【広島県広島市】

令和10年度に完成予定の本道路は、広島高速1号線を介して山陽自動車道と接続されることで、広島駅周辺市街地と広島空港との間の高速性・定時性を確保するとともに、温品・中山地区周辺地域の交通混雑が緩和し、交通事故発生リスクの低減などが期待されている。

今回の観察では、当該自動車専用道路の整備状況と、その効果について説明を受けた。

広島県道路企画課から、当初完成予定の平成29年度から、度重なる計画

変更、住民への対応など非常に厳しい状況を経て、令和10年度には高速2号線との連結が完成する見込みとなった。完成すれば、広島駅から空港へのアクセス強化、中心部の渋滞緩和、都心部の開発促進、緊急輸送道路指定や医療施設への輸送事案短縮などの効果が期待できるとの説明があった。



(3) 尾道市立美術館（ひろしま国際建築祭2025）【広島県尾道市】

ひろしま国際建築祭は、「建築」を切り口に、建築で未来の街をつくり、地域を活性化させ、地域の名建築を未来に残すことを目的として、今年尾道市、福山市を中心に初開催された。

今回の視察では、くまもとアートボリスコミッショナーである伊東豊雄氏や4名のアートボリスプロジェクトの設計者などに焦点を当てた展示が行われている尾道市立美術館において説明を受けた。

主催団体である神原・ツネイシ文化財団理事であり、慶應義塾大学SFC特別招聘教授の白井良邦氏から、各展示の説明も行われ、さらに、ひろしま国際建築祭は建築文化を発信する祭典として3年に1度開催することとし、次回以降は、公的機関にも呼びかけを行い、共同で開催したいとの説明があった。



(4) 兵庫県公営住宅管理課（県営住宅）【兵庫県神戸市】

兵庫県では、安心・安全で快適に子育てできる住まいづくり（住宅専用部分、共用部分・敷地内）に配慮し、既存の住宅をLDK化、システムバスや洗面化粧台を導入するリノベーションを行った県営住宅を提供している。

今回の視察では、「こどもまんなか熊本」の実現に向けた取組みの参考



とすべく、兵庫県の県営住宅における子育て支援の状況について説明を受けた。

兵庫県公営住宅管理課から、県で策定した次世代の若者を直接応援する施策パッケージ「若者・Z世代応援パッケージ」にある、安心して子育てできる住宅・住環境確保のため取組みとして、入居条件の緩和やサブリース事業を取り入れたリノベーションを進めているとの説明があった。

(5) 国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所【兵庫県神戸市】

六甲山系は、急峻な地形と風化した花崗岩により、豪雨に対し非常に脆弱であるとともに、周辺の市街化が進み、土地利用においては、平野部から山地部へと都市化が進行している状況にある。

今回の視察では、土砂・洪水氾濫被害や土石流被害の軽減を目的として実施されている直轄砂防事業及び森林の保全と再生を通じて、斜面の安定化と土砂流出の抑制を図る六甲山系グリーンベルト整備事業の実施状況等について説明を受けた。

国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所から、六甲山地特有の地形により昔から甚大な災害が発生している、また一方で、住宅地が高所へと広がっている状況にある、昭和13年の大水害を契機に当該事務所が設置され、直轄砂防事業を開始し、通常の斜面対策と併せて、六甲山に在来種による緑化であるグリーンベルト事業を市民、企業と進めているとの説明があった。

